

漁海況旬報 ちば

14 - 26

平成14年9月20日発行
千葉県水産研究センター
千葉県水産情報通信センター

2002年サンマ漁期前一致調査結果の概要

毎年7月中旬～8月上旬に北方4島沖～三陸海域で、北海道・岩手・宮城・福島・茨城・千葉の各道県水産試験場・研究センターと東北区水産研究所の調査船による「サンマ漁場漁期前一致調査」が行われます。今年も当研究センターから房総丸(110トン)が参加しました。

1) 調査海域と調査内容

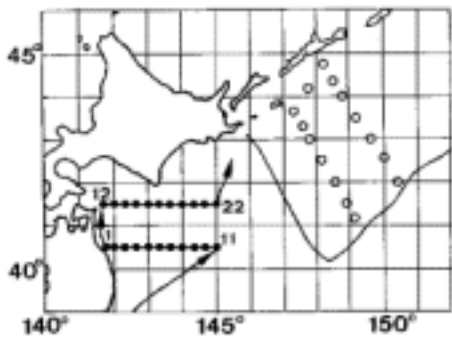


図1 2002年サンマ漁期前一致調査における房総丸の調査点(変更後、変更前)と航跡。図中の数字は調査点。曲線は北方4島200海里水域の境界を示す。

今年もロシアから北方4島200海里水域への入域許可が下りず、当初計画していた同水域内での調査はできませんでした。このため昨年同様、調査海域を下北半島東方(41°30'N～40°30'N, 141°40'E～145°E)に変更しました。7月26日に千倉港を出港した房総丸は28～30日に調査海域内の22点(図1)で海洋観測とプランクトン採集を行い、夜間は集魚灯を付けサンマ魚群の目視調査を実施しました。

2) 下北半島東方海域の海洋構造

当海域の100m深の水平分布は、北から5以下の冷水域が41°Nに沿って張り出し、親潮第1分枝の南端がありました(図2)。親潮の南には6以上の暖水があり、暖水塊の北端がありました。また、親潮の西側には11以上の暖水があり、津軽暖流が143°E付近まで張り出していました。前年と比較すると、海面では概ね低温、100m深では概ね143°E以西で高温、以東で低温でした。

流況(水深5m)は親潮第1分枝の南端では、反時計回り、暖水塊の北端では時計回りの流れがありました。津軽暖流による東向きの流れもみられました。

水温の鉛直分布は尻屋埼東線(St.12～22)では、St.16以西に津軽暖流の明瞭な構造が認められました(図3)。水深50～600m付近には3以下の冷水がありました。

鮫角東線(St.1～11)では、St.6～10に三陸沖暖水塊の構造が認められました。水深150～600m付近には尻屋埼沖と同様に3以下の冷水がありました。前年と比較すると、ほぼ同様な構造となっていたことがわかります。

3) 目視・漁獲調査からみたサンマ魚群の分布

本調査の結果、棒受網の操業対象となる魚群は発見できませんでした。三陸沿岸の定置網漁況では、6月を最盛期に沿岸域を北上する魚群の来遊が認められたので、7月末にはこれら沿岸を北上したサンマの主群は道東以北の親潮域に移っていたと考えられます。

4) まとめ

昨年に続き、観測点が当初予定していた北方4島200海里水域内から下北半島東方に変更となりました。しかし当海域の調査により、漁期中のサンマの南下を阻むような津軽暖流の張り出しや暖水塊の存在がなく、表層の水温は昨年より低いということが明らかになり、三陸海域への魚群の南下時期を『例年より早く9月中旬』と予測する根拠が得られました。(実際の漁況はほぼ予測通り、漁場の南端が9月18日の晩に八戸沖へ達しました。)

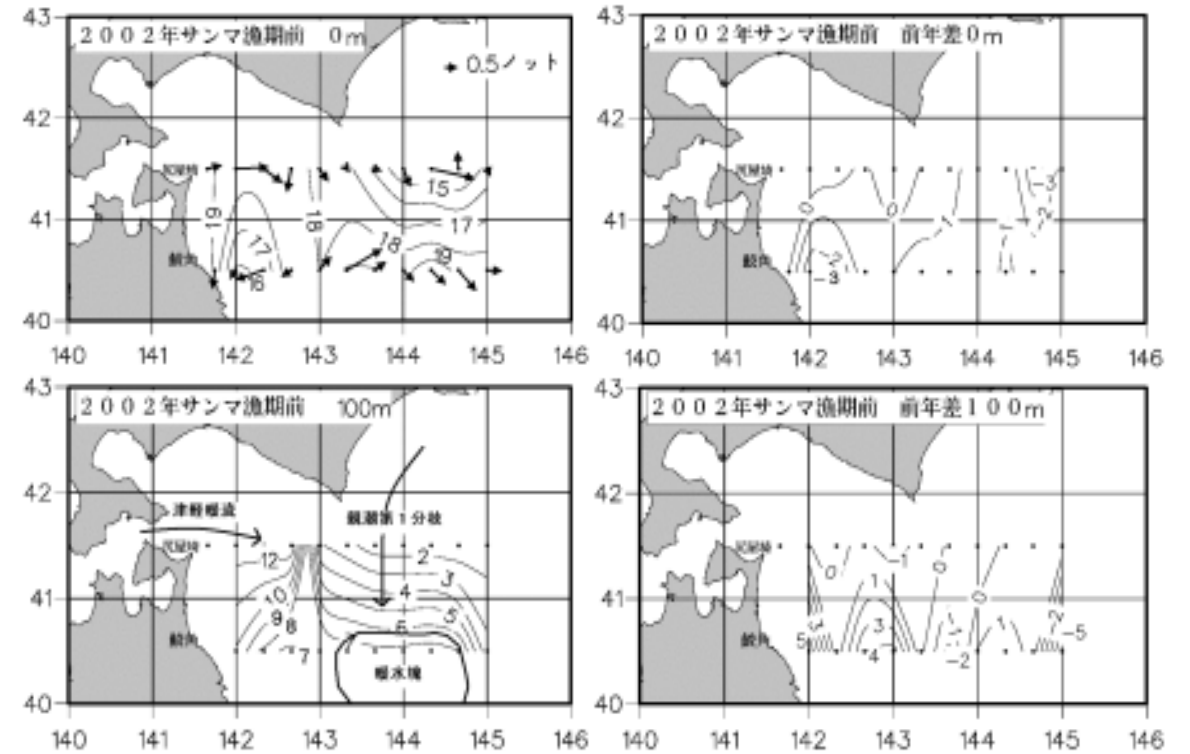


図2 水温の水平分布

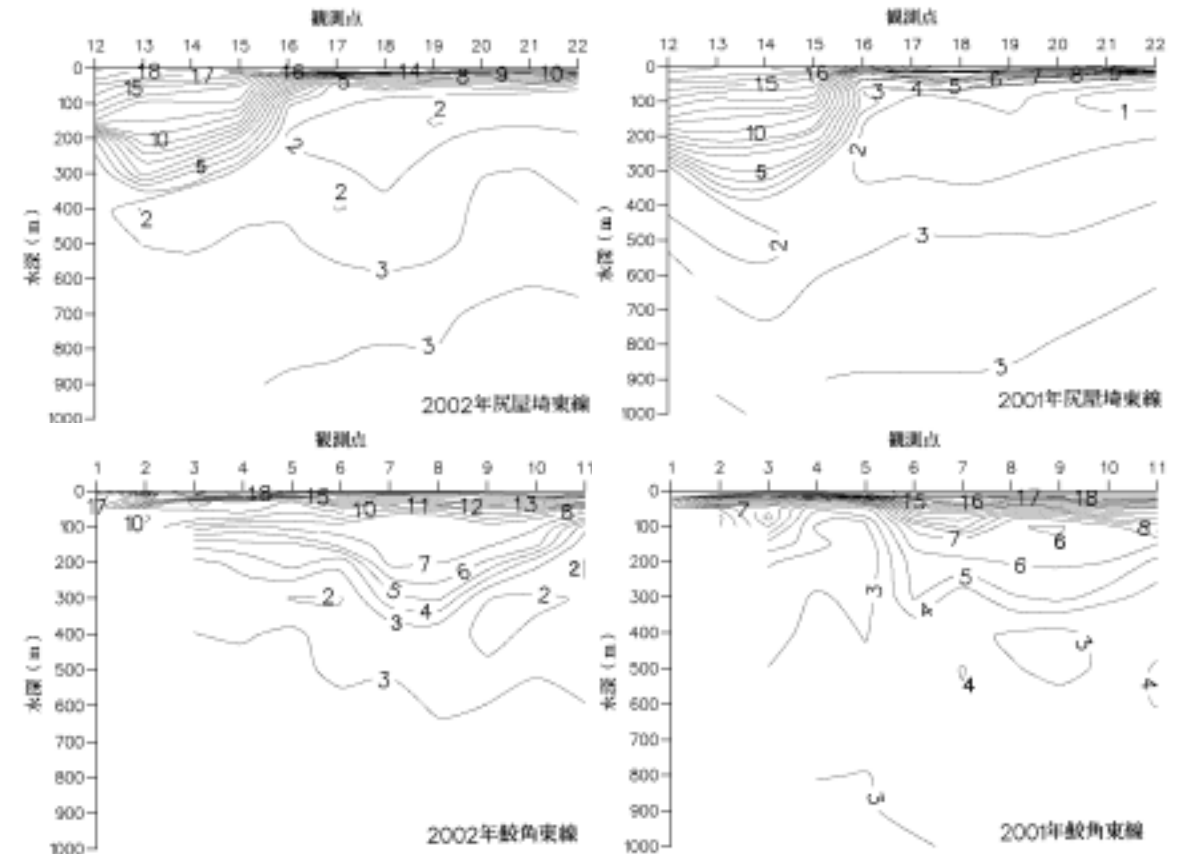


図3 水温の鉛直分布(左:2002年,右:2001年)